

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

しっかりと生徒と向き合い、信頼に基づいた教育活動を展開することで、生徒の「意欲」を育て「力」をつける学校をめざす。

- 互いに信頼で結ばれた関係を作り上げ、その中で豊かな人間性が育成される学校をめざす。
- 学力はもとより人間関係形成能力等も含めた総合的な「人間力」をつけることのできる学校をめざす。
- 専門コース設置校の特色を生かして生徒の学習意欲を引き出し、多様な進路をサポートできる教育活動を継続していく。

## 2 中期的目標

## 1 進路実現をはかる学力の育成

(1) 「わかる授業」をめざし、創意工夫の授業改革に取り組む。

- I C T 機器・視聴覚機材を取り入れ、教材や指導法の工夫を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を創出する。
- 校種を超えた授業公開・研究授業を行い、授業アンケート等を活用して積極的に授業改善を図る。

※学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の項目の肯定率(H30 年度 56%)を、2021 年度には 65%以上にする。

(2) 「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成をはかる。

- 学力生活実態調査を年 2 回実施し、学力の定着度を測定するとともに、学力向上プラン策定の資料とする。
- 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組みをおこなう。

※平成 29 年度から導入した学力生活実態調査の A・Bゾーンの生徒数を、2021 年度には 20 人以上にする。

※進路先に対する満足度アンケートをおこない、毎年肯定的回答 80%以上を維持する。

※中堅私大の合格者(H30 年度 11 人)を 2021 年度に 20 人以上にする。

(3) 総合選択制で培った教育内容の成果をコースや総合系の授業でも生かしていく。

- 生徒の諸能力(専門的な知識・自分で考える力・自分を表現する力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・理解力・物事を調べる力)の向上を目標としてエリア授業の充実を図る。
- 30 年度改編の専門コース制の体制を築き、生徒の進路ニーズに応える科目配置をする。

※3 年生対象の普総選アンケートでの表現力、プレゼン能力に対する肯定率(H30 年度は 57%)を、2021 年度には 70%にする。

※コース制生徒対象のアンケートで、カリキュラム・選択科目に関する満足度を 2021 年度には 70%以上とする。

## 2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成

(1) 社会に通用するコミュニケーション力のある人材を育成する。

- 海外の高校との交流と海外語学研修を校内行事に位置づけ、参加を促進する。
- 地元小中学校や地域社会と連携し、地域活動や異校種との交流を通じて社会に貢献する活動を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における国際交流、ボランティアに関する項目における満足度(H30 年度 67%)を、2021 年度には 75%にする。

(2) 規範意識と環境意識を育成する。

- よりよく社会で生きるために必要な力の育成として、生徒指導の充実を図る。
- 校内環境の向上と、生徒の美化意識の向上を図る。
- 入学当初のガイダンス・クラス開きを充実させ、安心できる居場所づくり・学校生活への定着の促進をおこなう。
- 「政治的教養をはぐくむ教育」を推進するとともに、さまざまな場面での地域社会への参加、交流を積極化する。

※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の項目の肯定率(H30 年度 67%)を、2021 年度には 80%以上にする。

(3) 部活動の活性化を図る。

- 1 年生を中心に入部運動を推進し、2 年次以降も定着をはかり加入率の向上をはかる。
- 部活動の活躍状況を地域に発信する。

※部活動の加入率(H30 年度 67%)を 2021 年度までに 70%にする。

(4) ユネスコスクールの活動を基盤に、社会参画意識の育成を図る。

- 「E S D パスポート」を活用して、生徒の社会貢献活動への参加を促進する。
- 社会貢献活動をととして自尊感情・自己有用感の向上を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の社会貢献活動の項目の肯定率(H30 年度 73%)を、2021 年度には 85%以上にする。

(5) 共生推進教室の取組みを生かし、生徒のコミュニケーション能力等の育成を図る。

- 「共に学び共に育つ」の理念を実現すべく、共生推進教室のシステムを確立する。
- 共生推進の生徒が、他の生徒や地域の人々と交流する機会をより多く設定する。

※2021 年度まで、共生推進の生徒の進路決定率 100%を維持する。

## 3 普通科総合選択制から専門コース制への再編整備にともない、学校行事や校内組織の機構改革を行う。

- 校務検討チーム中心に、教員定数減、教員の働き方改革の要請に対応する組織改革と、業務の効率化・平準化・マニュアル化をはかる。
- 行事検討チーム中心に、文化祭・体育祭・修学旅行・つばさコレクション等の学校行事の内容、形態、日程について見直しを図る。
- 進学向上チーム中心に、進学をめざす専門コースを中心に中堅大学に合格する学力をつけさせる体制を構築する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・保護者、生徒とも肯定的評価が高い項目はここ 3 年ほぼ同じである。保護者肯定的評価 90%超は「子どもに関する個人情報を守られている」「社会貢献活動に力を入れている」「保護者の相談に適切に応じてくれる」(この項目は大幅に上昇)で、加えて「先生は子どものまちがった行動を正しく指導してくれる」「命を大切にすると心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」「保護者や地域の人々が授業に参加する機会を設けている」も大幅に上昇して 90%近くになった。一方保護者の回答率が下がっているのがまず課題であり、「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」、「学校の学習指導の方針は保護者に示されている/共感できる」の項目で下がっている。</p> <p>・生徒肯定評価も昨年度とほぼ同様であり、高いのは「頭髪や服装の指導/遅刻指導/交通ルールの学習に力を入れている」「評価の仕方や基準について事前に示されている」などが 80%を越えて高く、また「授業が分かりやすい」は数字は高くないがかなり改善されている(56→64)。課題としては「プライバシーを守ってくれる」が低下した(75→69)。全般的には学習活動についての項目がそれほど高くないことから、今後ともコース制整備とともに授業や学習活動に力を入れていく必要がある。</p> <p>・教職員の自己評価が全般的にかなり低くなってきている。生徒、保護者の傾向があまり変わらず昨年度より全般的に改善があることに比べて低いことは、改編期を経て定着期に移行する中で教職員相互の議論や取組みへの協力体制、効率的な学校運営、「働き方改革」に力を入れていく必要がある。</p>	<p>[第 1 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善はすぐに目に見える効果というのは表れにくいですが、どんな感じか。</li> <li>進学準備クラスの手ごたえはどうか。進路定着のようすと定着をすすめる工夫などはどうか。また進路について生徒は具体的な夢を持っているか。</li> <li>社会に根差して生きていく授業が大切。北摂つばさも昔からやってきているのでそれを伸ばしていったらよいのではないか。</li> <li>図書館を活用したらもっと面白くなるのではないか。</li> </ul> <p>[第 2 回 見学授業について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習でのコミュニケーションは大切。孤立している子がいないかは留意してほしい。「スマホを使うな」よりツールとして使えるようになってほしい。</li> <li>スマホでアンケートを取るのの良い取組みだった。</li> <li>説明力、コミュニケーション力をつけてもらった人が成人したらどんな社会になるのか楽しみ。</li> <li>授業のめあてを明示しているのは良かった。</li> </ul> <p>[第 3 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金について、中学校から受けている生徒がいるので将来返済できるのか不安。</li> <li>表現、プレゼン力の伸ばせがほしい。入部率は維持が大事。</li> <li>大学もいろいろな名称の学部ができています。ミスマッチを起こさないよう、大学のことを事前によく知るなどの指導が大切。</li> </ul>

## 府立北摂つばさ高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路実現をはかる学力の育成	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改革 ア 授業指導方法の工夫</p> <p>イ 校種を超えた授業公開・研究授業</p> <p>(2) 進路実現できる学力の育成 ア 学力生活実態調査の導入実施 イ 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組み</p> <p>(3)エリアの充実 ア 生徒の諸能力の向上の取組み</p>	<p>(1) ア・コース制への改編、新学習指導要領の主旨を踏まえ、「わかる授業」から「自ら学び考える授業」の創造に向けて研修を行う。 ・学力保障委員会を核に、1・2学期に1回ずつ授業公開・研究授業週間を行い、教員間の研さんの機会を増やす。</p> <p>イ・小中学校の公開授業や研究授業を複数教科で開催し、異校種間での授業研究を進める。</p> <p>(2) ア・学力生活実態調査(4月と10月実施)をツールにして学力定着度を測定・分析、特に家庭学習の習慣化を目標に、持続的な学力向上をめざす。 イ・進学志望者の学習と部活動の両立を支援のための平日ノークラブデーを行う進学講習を定着させ、年間通じて講習参加者が維持できるようにする。 ・各学年で行う進路説明会・模試を、生徒自身による進路意識の醸成から具体的な志望先決定まで効率的・計画的に実施し、また大学、医療看護系希望者向け説明会・模試を積極的に勧める。 ・1年次進学準備クラス、2年次以降人文ステップアップコースへの結集を通じて、より大学受験にチャレンジする生徒集団の結集を図る。</p> <p>(3) ア 総合選択制の最終年として、総合選択制が当初めざした力について、生徒たちが身についたと実感できるような内容をめざす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断生徒「授業に工夫をしている」の肯定率65%(H30年度55%) ・同 「他の先生が授業を見学に来る」の項目の肯定率80%(H30年度71%) イ・異校種連携の研究授業の他校からの参加教員40人以上(H29年度39人 H30年度は中止)</p> <p>(2) ア・学力生活実態調査の上位者(A, B 1ゾーン)20人以上維持(H30年度19人)</p> <p>イ・学校教育自己診断生徒「学校は進路情報を知らせてくれる」の肯定的回答80%以上(H30年度77%) ・進路別満足度調査大学・専門学校・就職各肯定率90%維持(H29年度各90%以上) ・中堅私大の推薦・AO合格者を10人維持(H30年度11人)、看護医療系合格者を10人以上(H30年度7人)</p> <p>(3) ア 普総選アンケートの表現力・プレゼン力の項目の肯定率80%以上(H30年度57%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断生徒「授業に工夫をしている」の肯定率63%(△) ・同 「他の先生が授業を見学に来る」の項目の肯定率73%(△) イ・異校種連携の本校実施研究授業の他校からの参加者15人(△)…G20休校による日程逼迫</p> <p>(2) ア・学力生活実態調査の上位者21人(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断生徒「学校は進路情報を知らせてくれる」肯定的回答77%(△) ・進路別満足度調査(H30)…大学88%、短大90%、専門96%、就職95%(△) ・中堅私大の推薦・AO合格者数2人(△)、看護医療系合格者数10人(○)</p> <p>(3) ア 普総選アンケートの表現力・プレゼン力の肯定率69%(△)</p>
2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成	<p>(1)社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成 ア 海外の高校の交流受け入れと語学研修 イ 小中学校や地域との連携</p> <p>(2)規範意識と環境意識の育成 ア 生徒指導の充実 ウ 安心できる居場所づくり エ 「政治的教養をはぐくむ教育」の推進</p> <p>(3)部活動の活性化 ア 部活動加入率の向上</p> <p>(5)共生推進教室の取組み</p>	<p>(1) ア 国際交流委員会と生徒会が中心になり、海外の学校との交流をすすめ、友好関係を築く。 イ 授業、部活動、生徒会、ボランティア等の活動を通じて小中学校や地域イベントへの積極的参加・交流を推進する。また授業等で地域課題について考えていく機会を提供する。</p> <p>(2) ア 遅刻多数の生徒に対して、保護者と連携し早朝登校・居残り指導を行うなどして生活習慣の確立を促し、遅刻者数の減少をめざす。 ウ すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、SC、SSWを最大限活用し、教育相談委員会、支援委員会の充実をはかる。 エ 大学や選管と連携しながら、「政治的教養をはぐくむ教育」を推進する。</p> <p>(3) ア 入学前の部活動体験週間、直後の体験入部デーや仮入部期間等を通じて新入生の入部を強く促す。</p> <p>(5) ア 生徒の活躍先を意識的に拡大、また、とりかい高等支援学校と連携して実習先、進路先を確保する。</p>	<p>(1) ア 海外交流実施時にはアンケートを実施し満足度を80%以上 イ・小中地域行事に参加する生徒の延べ人数250人(H30年度250人) ・ESDパスポート表彰認定を10人以上(H30年度9人)。</p> <p>(2) ア 1・2学期の遅刻数を2000以下にする。(H30年度2420) ウ 学校教育自己診断生徒「いじめなど困っていることに真剣に対応」「悩みや相談に親身に応じてくれる」肯定率70%(H30年度63%)、教職員「教育相談体制整備」75%(H30年度68%) エ 政治的教養実施後アンケートで「必ず投票に行く」回答比率40%(H29年度33%, H30年度未実施)</p> <p>(3) ア 1年生入部率70%以上(H30年度67%)</p> <p>(5) ア 十分な実習先の確保と3年生全員の進路実現</p>	<p>(1) ア オーストラリア研修実施。参加人数が少なくアンケートは実施しなかったが、非常に肯定的な感想ばかりだった。 イ・小中地域行事参加生徒数延べ315人(◎) ・ESDパスポート表彰認定9人(△)</p> <p>(2) ア 1・2学期の遅刻数3104(△)※欠席は-416 ウ 学校教育自己診断生徒「いじめなど困っていることに真剣に対応」「悩みや相談に親身に応じてくれる」肯定率67%、教職員「教育相談体制整備」59%(△) エ 投票行動の機会がなかったためアンケート実施せず</p> <p>(3) ア 1年生入部率67%(△)</p> <p>(5) ア 実習先については十分確保できている、進路についても全員内定</p>
3 学校行事や校内組織の機構改革	<p>ア 校務検討にかかわる取組み</p> <p>イ 行事検討にかかわる取組み</p> <p>ウ 進学向上チームにかかわる取組み</p>	<p>ア 教員定数減にあたり、学年・校務分掌・各種委員会の機構改革を行い、可能な限り業務の効率化・平準化・マニュアル化をはかる。 ・“働き方改革”にかかわって、「大阪府部活動の在り方に関する方針」「教員の勤務時間に係る方針」(仮称)等に従い、業務の効率化を図る。</p> <p>イ コース制移行後の年間行事計画、特に文化祭、体育祭、修学旅行等の大きな学校行事の例年日程を確定する。</p> <p>ウ 進学準備クラス、進学講習等の取組みの検証を継続し、改善を図っていく。</p>	<p>ア 学校教育自己診断教職員の分掌連携、職場環境に関する項目の肯定率60%。(H30年度35%)</p> <p>イ 同 学校行事の工夫改善項目の肯定率80%。(H30年度72%) ウ 同 「きめ細かい進路指導」、「系統的キャリア教育」項目の肯定率70%にする。(H30年度61%)</p>	<p>ア 学校教育自己診断教職員の分掌連携、職場環境に関する項目の肯定率37%(△)</p> <p>イ・ 同 学校行事の工夫改善項目の肯定率73%(△) ※体育祭を9月から6月実施に変更 ウ・ 同 「きめ細かい進路指導」、「系統的キャリア教育」項目の肯定率54%(△)</p>